公民館報 こすど

発行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集発行印刷人　矢部藤三郎

創立十周年――
小須戸中学校
――多彩な記念事業

三年たてば三つになるのは子供だけではない。義務教育の新制中学も、もう十才になった。殊にわが小須戸中学校は生後肥立ちのよい子供だったと言ってよい。

昭和二十二年五月甚だしい戦後の混乱の中に発足して、旧小須戸小学校に四教室、矢代田小学校に二教室を借りて二部授業を始めたものが町当局町民の皆様の理解と熱情によって逸早く「東に小須戸、西に大滝」と呼ばれる当時の模範的独立校舎を完成し、校内外の整備から内容施設々備も徐々ではあるが、町予算の足らぬ処は町民・PTA・その他特志者に守られて年毎に充実した。

中学校建築期成同盟の初めから緑化、植樹、図書視聴覚と町民は中学校を育てる為に努力された。教育尊重のこの気持は尊いものである。公民館活動の活潑さもそれと並行したように思われる。

今、十年の歴史をふり返って感慨新たなるものがある。そこで小須戸中学校PTAでは、創立十周年を記念して今年四月から次の行事並に記念事業を計画し、更に全町関係有力各位を網羅した記念事業推進委員会の結成を願って、着々その仕事を進めている。

幸、すでに町出身成功者佐々木嗣郎氏（東京）坂井勘治氏（小樽）小林忠雄氏（札幌）其他それに小須戸町連合婦人会などから大口寄付があったが同校関係者は今後も町民各位の御後援を期待している。

○記念行事

1 記念大芸能祭　去る十一月十五日開催

2 記念式並に表彰式　明年五月十六日挙行

3 記念体育大会　記念式前後に開催

○記念事業

1 ブラザーミシン十台寄付（先駆事業として既に完了）二〇万円

2 北辰ホームトーキ映写機寄付　一八万円

3 全校式校内放送施設整備　五〇万円

十年に一回とは言いながら、なかなか大奮発を要する仕事である。

生活記録
私の反抗

もう二・三回来てくれる妹の縁談の話に、私はまだ見た事もないが○村の人だそうだ。

台所で新聞を読んでいる私の耳に仲人の声がする。

「真新しい家にはカワラを上げ白壁の土蔵もあるし、小姑はいないしそれに○村の方はのんきで楽だし、本当に申分ない所ですいね…」と良い条件だけを並べたてて、さかんにほめやかす。

私はこの一言々がしゃくにさわって、新聞など頭に入らない。「家がらや財産がなんだ、それが嫁の本当の幸せか。」とどなってやりたかった。こんな仲人には頼れない自分の事は自分でと思うと、何事にも無知な自分の弱さに焦りを感じる。そんな話があって二・三日後、祖父と父がいろりを囲んで話していた。

「今いくつらい」と才を聞く祖父「そうらのう…二十三か」と父「フーム二十三もなればもう良いの悪いのと言ってはいられない、五ねエなればもう後家られ、それに下がまだぞろぞろしてるんだし」と言う祖父の言葉に、ガリガリ釜をみがく私の手が動かなくなってしまった。五ねなれば後家、妹がいるからというその二言が胸に深くクギづけされた。結婚をこんなにも浅く考える祖父がうらめしく又姉の反撥もわいて来た。不満でならない心の奥でそうだ、私は必ず二十五過ぎの花嫁になってやるか、それとも世間の人達が白眼視している後家におさまってやるか、この二通りのどちらかに幸福をみい出して、古い頭の祖父や村人を見返してやろう。人間の幸不幸なんて自分自身の心にあるんだからと、こんな事を考え、ようやく心の安らぎを覚える。

小向青年会　I子　20才

オ父サン納税スンダノ私ノ家

委嘱された
新民生委員

今回任期満了につき改めて次の諸氏を委嘱した（十二月一日付）

町部	宮崎純能	再
〃	木村リツ	再
〃	竹内智淳	新
〃	大関勝治	新
〃	広川末蔵	新
横川浜	吉田幸助	再
小向	野崎春作	再
水田	鈴木市助	再
鎌倉	板谷虎五郎	〃
天ヶ沢	土田照山	〃
矢代田	小柴吾三九	〃
新保	丸山愛一郎	〃
竜玄	斎藤清五郎	〃

改定される
水道料金

今回、水道では水圧低下に依る給水不能の地域があるので之を解消する為、四十馬力のポンプ一台の増設と、それに伴う水源、沈澱池の改造等で水道諸設備の改善向上を計る事になりました。

つきましては此の工事に伴う経費と今後の電力、其の他水道事業の経営の面で赤字が生じるので、水道の健全財政を維持する為、町議会の決議を得て止むなく昭和三十二年一月分より表の通り水道使用料の値上を実施する事になりましたから従前通り皆様需用者の御協力を御願い申上げます。

専用栓改正料金

種別	使用料（一カ月に付）		一立方米に付	備考
	基本水量	基本料金	超過料金	
第一類	十立方米	一六〇円	一五円	一般家庭用
第二類	二十〃	二八〇円	一五円	営業用
第三類	百〃	一、三〇〇円	一三円	湯屋工場其の他
第四類	十〃	八〇〇円	一〇〇円	噴水等の娯楽用

共用栓改正料金

共用栓	十立方米	一三〇円	一五円	共同用

みんなで歌う会　誕生

文化的で健康的な歌を歌う人達の歌の会、集まった人達と親睦を図る場でもある。みんなが歌う会は毎月第一、第三の金曜日（月二回）小須戸地区労の主催で開かれています。

毎月六〇人以上の皆さんが楽しく歌っていますが、更に発展させる為に、一人でも多くの皆さんの参加を望んでいます。皆さんの手で大きく育てゝ下さい。

◎練習する歌はみんなの希望によってきめます。

◎楽符は会場でお渡しします。

◎開催日はその都度ポスターで知らせます。（公民館前、駅前、新保通り公民館掲示）

◎会場は小須戸町公民館　午後七時より九時まで

竣工した国宝地蔵尊の保安庫　茂林寺境内

連合婦人会より
町民の皆様に

第七十号公民館報に婦人会に物申す。之が言いすぎかとの御意見繰返し繰返しかみしめて有難く拝読致しました、さっそく連合婦人会長の御返事がありましたことも承知致しました、しかし連合婦人会のやっておる事に一応の御理解も戴きたいことも多々ありますので会として改めて私共の考えを申上げてお答えとしたいと思います。

私共婦人会が物を売ります場合県連郡連の資金を得る為の上よりの指示で手拭電球等を売ることもあります又活動資金を私共自体が持ちたい為の事業も致しその利益金の一部は講習講演等に向けることもございますが連合としまして新潟医大内野の大火見舞金九州水害の義捐金に出しましたり近い処ではさかのぼっては中学校のピアノ購入資金の寄付同じくカバーの寄贈文化祭の折りには毎年小中学校へ参千円すつ公民館へ五千円の寄附今年の敬老会へ風呂敷の寄贈等記憶しております又町部婦人会でも小学校のステージの幕保育園の施設の寄附住吉町の大火の時にいち早く活動を開始したこと等外へ出ては村松療養所並に養老院の慰問など一般会員には年に一度の社会見学をかねた慰安旅行（彌彦　津川　田上出湯等）には会より一部補助を出すことになっております。今年の文化祭の売上総額は拾弐万〇参拾円のところ弐万九千四百円の純益がありましたので前述の通り公民館五千円小学校参千円中学校は来年の十周年記念事業を計画されておりますので資金の一端にもと壱万円寄附致しました又共同募金の場合も毎年参加致しすわらじの前売券の売りさばきの協力街頭募金のお手伝等私共と致しましては住みよい町地域社会のよりよくなる為又は可愛い自分達の子供の為になることを心がけているつもりでございます只折々かけ引きが慣れませんので業者の宣伝の手先に使われたりして、皆様に御迷惑をおかけすることもなきにしもあらずと深く反省致し今後充分気をつけたいと思います

こう一つ一つあげてみますと婦人会は寄附ノイローゼのようだとの御批評を受けるのも考えてみますと当然のことかも知れませんロ巾ったいことかも知れませんが諸経費節約の折から、少しでもお役に立ちたい考えでおりますことを諒として戴きたいと思います。お花売りのことにつきましては新大大火の際寄附する目的で始めたのでございましたが、その后もそれ〴〵有意義に使っているのでございます。

町外の処まで売りに行ったとのことでございますが、あの際は町村合併の呼びかけに行った折でございましたので親睦の意味で出かけましたので大変に喜ばれました。

私共郡役員会等に出席しましてお話合いを致しますと他の市町村では弐・参万の補助金が戴いて活動しておられる処が多うございますし会費も最低五十円くらいでございます。私共は年五千円の補助金を公民館を通して戴きますが、その一面文化祭には同額の五千円を又公民館へ寄附致します一人年弐拾円の会費でやっております私共でございますので何かやらなくては、とても活動も御寄附も出来ないような次第でございます。年に一度のお花売りでございます業者の方々には枉げてお赦しを戴き出費多端の折から誠に恐縮に存じますが今年はその例年にも増して皆様の一段の御協力をお願い致しその純益は最意義あることに使わせて戴きたいと思います又講演講習等も是非やらせて戴きたいのでありますが受講者や聴講者が少くて意義無いものに終らせるようなことが私共役員としての最大な悩みでございます何か皆様のお為になるようなことを計画致しましても計画倒れにならぬよう皆様の厚い御理解と御協力を切に戴きたいものと思います。年一度の総会ぐらいはこぞって出席していたゞき少しなりと身に付くお話をお聞きし余興を楽しんだりして一日をすごしたいものと役員一同念願致しております。

連合婦人会

憩をギターで楽しみましょう

日　1月10日
時間　午後七時より午後九時まで
場所　公民館二階ホール

楽器をお持ちの同好者の皆さん
憩の一時をギターを弾いて楽しみましょう

県下武道大会成績

県下柔剣道大会は十一月三日小須戸小学校体育館に於て柔剣道五十余チームが参加して盛会であった。

剣道の部「団体」

一位	新潟剣道	
二位	小須戸剣ク	
三位	白根剣振	

「個人無段」

一位	井上政男	加農
二位	阿部照雄	〃
三位	水戸 進	〃

「初二段」

一位	清水芳一	小須戸
二位	山宮辰一郎	地蔵堂
三位	川瀬三夫	小須戸

「三・四段」

一位	山田信一	小須戸
二位	吉田徳義	〃
三位	川瀬一平	〃

少年団体の部

一位	地蔵堂中
二位	五泉中
三位	笹岡中

柔道の部「団体」

一位	新潟西警
二位	加茂農高
三位	三条実高

少年団体の部

一位	笹岡中
二位	新津五中
三位	金津中B

小須戸町地名独考 (一)

坂井冨三郎

地名は歴史を背負っている。

口碑伝説には案外くらわせものがあるし、古文書などの無い場合、地名で考えると、とてもおもしろい。殊に小字名は一ばん正直にその成り立ちの時の庶民の気持を現わしているので、よい手がかりになる。

警戒しなければならないのは、鵜出古木などの当て字で之を字で判断しようとするとたちどころにくらわせものがでっち上げられる。

之から時々小須戸の地名に就いて私の独りよがりな当たらないかも知らない考証を書かせていただく。之を機縁に研究家のお教えをいただければ幸である。

(一) 矢代田

矢代田に就て私は次の三つの仮説を立てる。

◉第一　やしろ（社）田

他にさきがけて立派な神社ができ、賜田のあった土地。

◉第二　八代田

上古一代（しろ）は五歩の地積で八代（四十歩）の田があった土地、又は多くのしろの田のあった土地。

◉第三　矢代田

（矢田、矢代田などは、あだまもりの為に矢を作って奉る部民への給田の意味）

矢を作り献上する役目をつとめたので、下しおかれた田のある土地。

第三説が小字名を考えてゆくうちに最も真実性があると思われる。

昔の矢代田の中心がもっと山寄りにあっただろうことは、本地という小字が山寄りにあり、更に元寺　十二屋敷、土居（土囲）の内、沢の内などという地名も残っているのがその証拠である。

宮田、寺入、仏路よいう所がもっと山奥にあるのもおもしろい。

屋敷とは、昔は土民と違った者のやかたについて言った言葉であるから偉い人がいたらしい、ただ追立が（大館）か（御館）であるかどうかは不明である。

現在の部落に立木戸（館木戸）上木戸、下木戸という所のあることも考えて、矢代田に中世、豪族の館があり、寺があり、要所に柵があったことがうなずかれる。

西手低地地名に通り（道路）があり、谷地（荒地）が多く、また祖先の努力によって田が出来たことは、五本田、鋼田、荒田などの小字で明かだし舟の通り路もあったことは舟戸（舟つき場）の小字が証明する。

金山、西山の山、兎谷、茗ヶ谷、灰ヶ谷の谷、高沢、三沢の沢、石坂入、腰間入の入（奥）三沢沖、金山沖などの沖（遠い田）は説明を要しない。

三分一に就ては、他より遅く開田され、結局米納か銭納かは知らないが、ある基準の三分の一を納めればよい土地であったものと思う。

風邪癒ゆる木犀強き香を放つ　旺賓
朝寒や襟首を刺す稲埃　盧秋
葉鶏頭二坪程の庭の中　渓灯
鮨製香るゝに聞ゆかたことの唄　泰浪
葉鶏頭や妻が勤めの終る刻　越楼
朝寒の挨拶交し市ひらく　香月
行商も終りの宿の朝寒し　山葵
収穫に施錠の家や葉鶏頭　流水

伸びよ若人

小須戸演劇研究会

いつだったか、確な事は忘れてしまったが、今年の正月の或る日のこと現在会員となっている二・三の人が集った際、誰かが言った言葉——

小須戸町には映画や演劇のサークルがない、他の町村では演劇活動などの盛な処が多くあるが、我々の手でこの町にも演劇のグループをつくれるとよいんだ——が、

この会を結成せしめる動機となった。

現在は多忙のため直接会務にはタッチされていないが、横町の梅津さん等が中心となって二月二十三日発会式を行ったのである。

「本会は特定の主義思潮に捉われず、演劇を通して会員相互の親睦を図り文化の真髄に接して知識を向上し、人格を淘冶し併せて地域社会の文化の発展に寄与するをもって目的とする」

いさゝか大時代的な臭がするが、之が本会々則の目的の項にデンと据えられた文句である。新劇はやゝもすると特定なイデオロギーと結びつけて解釈されるが、本会はそれを最も忌み嫌うものであり、又本会の性格を語る特に重要な事は、本会は演劇研究会という名称ではあるが、上演を目的として作られた会ではないという事である。

之はいさゝかサフィスティックな言葉に聞えるかもしれない。勿論、上演を度外観しての演劇研究会等存在意義が殆どない。舞台に上演されてこそ演劇と呼ばれるのである。されば我々も上演をしないと言うのではなく、唯本会の場合は口はばったい事ながら、文化サークルとでも名づけたい性格のものである。然しながら、そのような漠としたものでは研究のよりどころがなく、運営に著しく不便を来たすので、そのよりどころを綜合芸術と呼ばれるところの演劇を通して逆に芸術の各分野に接して行きたい。そして、あゝでもない、こうでもないとやっているうちに、もしも上演したいという機運が醸しだされたなら、その際はじめて上演しようというのが本会の態度である。

早いもので、結成以来既に十カ月、その間毎月の会員研究会を開き、各人の専攻科目の研究発表、討議、映画の合評等を行い又演出、演技効果（音楽照明を含む）の各グループはグループ毎に研究日を定めて研究を行い今日に到ったのである。

勿論、各グループを固定する事は研究の偏重を来す事になり、又スタープレーヤー等も生む事になるので、一定期間を区切って交流を行い、本来の趣旨に副うべく努力している。又練達の士を招きより高き段階への飛躍も充分考慮されている。

さゝやかながら、かくの如くに研究を行っているうち、最近漸く上演の機運が兆し、来春第一回発表会を行うべく会員一同大車輪の努力をいたしておる次第である。

第一回発表会に、「夕鶴」など二本の脚本を準備しているが、何分にも夕鶴は中央の専門劇団が、百数十回も上演し、その都度演劇として深い奥行に感激を新たにしていると言われる位の代物で、演技照明、装置、音楽が一体となって醸し出す象徴的な、幻想的な雰囲気は結成間もない我々が表現するにはあまりにも難物ではあるが、我々がこれと真向うから取組んだ意気を壮として、大方の御指導と御援助を仰ぎたく、心からお願いする次第である。

会員数	十八名
事務所	公民館内
連絡先	各委員
顧問	長谷川鉄太郎
〃	宮崎純能
会長	徳永賢雄
委員	竹見竹一
〃	保科清一郎
〃	宮川昭夫
〃	小林ヨシイ
〃	加藤カズ

私達の活躍

矢代田婦人会

待望の公会堂が十一月三日落成致しましたので之を記念して、十一日に部落婦人会主催でさゝやかな敬老会を催しました七十以上の方が七十人余、役員の方々のお心づくしでリヤカーの送り迎えまでして下さいましたので、御出席は大多数でございました。中食も役員の方々のお心づくしの赤の御飯でおもてなしを致し、午後は余興の浪曲で一般の人達も多数おいでになり、誠に和やかな一日をすごしました。

さてこの経費ですが、寒以来落成の事をしたいと念願致しまして日用品、石鹸などを買っていただいたり、映写会をやりまして利益金壱万五千円ほど貯えました。それを此の度使った訳でございます。内訳は公会堂へ五間の上敷五枚六千円、バック用の幕一張り二千円、浪曲五千円、中食代百人分三千円、茶菓子代千円、計壱万七千円使いましたが部落皆様から祝儀二千円余り戴きましたので、収支つぐなったような事でございました。

しかし御老人達のお喜びの顔を思い出しますと、ほんとによい事をしたと何の惜い心も起らないと精算役員の御話合いまた「一生懸命仂きましょう」とちかいました。

もと〳〵部落の皆様の御協力の賜でございます。いろ〳〵婦人会への批判もある折から、こういう在り方もあるという事を一言申し上げたいと思います。

十二月 購入図書

現代
- ◇黒い河　富島健一
- ◇照る陽の庭　檀一雄
- ◇いたづら　志賀直哉
- ◇岸うつ波　壷井栄
- ◇鮮がき暗い花　林芙美子
- ◇生活の唄　石坂洋次郎
- ◇愛と死の陰に
- ◇金閣寺　三島由紀夫

時代
- ◇怪盗五十三次　佐々木杜太郎
- ◇義民磔茂左衛門　松本幸輝久

ユーモア
- ◇大安吉日　源氏鶏太

詩歌
- ◇赤城嶺帖　高村光太郎

- ◇虹　椿子物語　高浜虚子

経済
- ◇新財閥物語　読売新聞社編

随筆
- ◇たそがれの歌　渡辺一夫

家庭
- ◇これだけは知らねばならぬ　新生活研究会
- ◇味噌汁
- ◇いわし料理
- ◇楽しいお弁当料理集

記録
- ◇生活する母の記録　野上彰編
- ◇貧乏追放　松居桃樓
- ◇法廷夜話　野村正男
- ◇アパート暮し　重松敬一

教養
- ◇読書と人生　鳥影豊
- ◇美しくなる教室

- ◇文学サークル　伊藤道師　国分一太郎　野間宏　編

随筆
- ◇縦横おかめ八目　池島信平　扇谷正造　編
- ◇野鳥と生きて　中西悟堂
- ◇その他雑誌

分館へ・出張貸出し

横水分館…一、十一、二十一日
新保分館…五、十五、二十五日
矢代田分館…四、十四、二十四日
（矢代田保育所）
貸出時間午后七〜九時迄

弓道礼讃 ㈠

竜玄　星名正男

的に命中させる事を競う競技としては昔から「射は君子の争であって己を正しくしてのち発射し矢を発して中らなければ己れに勝つ者を怨まず、省りみて正しさを己に求める」と言っているように、徒らに敵愾心や射倖心を伴う運動競技とは、その性質を、全く異にするものである。

同じ飛び道具でも弓には銃のような照星も照門もない。弓の照星、照門は自分の体で自ら之を造るのであり、毎日の練習は自分の体に如何にして正しく保持するかの訓練以外にはないのである。従って弓を毎日引いていると、知らず〳〵の間に姿勢がよくなり容姿凛然従容典雅な人物ができあがるというわけである。

矢を的に中てるには、左右に無限に延びんとする肩と腕の力が平均して、その力の働く方向が眞直ぐに上下左右に無限に延びんとする背骨と頸の力と十文字（直角）をなす事が絶対的な要件として要求される。毎日一定時間この十文字を造る訓練をするのであるから自然に足、腰、背骨、頸筋が正しく延びて肩や両腕が均整を保って、すばらしく発達するのは理の当然である。弓を始めてしばらくすると、必ず洋服がきゅうくつになる。又老人になっても腰が曲るというような事は絶対にない。矢が弦を離れる時には、前記の上下左右にどこまでも延びんとする全身の力が爆発的に弓力の抵抗がなくなる事によって、更に上下左右に伸張する

この運動を毎日規則正しく続けると丁度、袖の雲を振り捨てるように神経痛のような病気は除々に末梢神経の方へ移動してしまいに体内からこの病根を振り落してしまって全快すると医学的に説明されており、また実例も多くある。

このように弓によって毎日楽しみながら自然に均整のとれた肉体美が作りあげられるので、米国では最近にこんなよいボデービルの方法は他にないというので、男女を問わず盛んに行われているとの事である。毎日無味かんそうなスプリングを引いたり、重い車の輪のようなものを持ち上げたりするボデービルの方法などは、弓道の足許にもよれないわけである。以上はいずれもスポーツとしての弓道の効果をあげたに過ぎない。

"戸締りしっかり" 火之用心

寒さに向って火気を扱う事が多くなります。特に次のような事が実行されているでしょうが、お互に火災を起さぬよう気を付けましょう。特に旧年末となりますので、戸締りはしっかりとし、盗難にかからぬように注意しましょう。

一、こたつには必ず金網をかけておくこと

一、だれもあたらないこたつは少しフトンをあけて熱がこもり過ぎないように気をつける

一、火床の下に燃えない台を敷くこと

一、火消しつぼのふたをしっかりとしておく

一、火消しつぼのまわりにもえるものゝない土間やコンクリートの上におくこと

一、藁灰やモミヌカ灰は二〜三日もたってから発火した例も度々あるので、温かみが無くなってから他に移すこと

一、竈の煙突ストーブの煙突の掃除は如何でしょう、寒くなるとおこたりがちですが充分気をつけましょう

一、公共建物（公会堂、学校、公民館等）を使用する時は特に煙草の吸殻残火のあと始末を充分致しましょう。

御協力を乞う

前回公民館報に私自身の考えで御答え致しましたが、過日役員会で是非今年もお花売りを致しましょうと言う事になりましたので、何分の御協力を御願い致します。

川村まつ

一品料理

公民館で第一日曜、第三日曜の午後七時から月二回の料理の実習があります。第一日曜に実習される中の一品を御紹介致します。

◇さつま芋、玉葱と生姜のかき揚げ

材料　五人前

さつま芋百匁、玉葱一箇、卵一箇、古生姜（新にてもよい）一箇、揚油一合、キャベツの葉二枚、小麦粉カップ一杯、塩、酢、砂糖

作り方

さつま芋はきれいに皮をむいて一センチ位のあられに切り、塩小さじ一杯を水一合に入れた塩水に十分間つけておきます

玉葱は一センチ位のあられ切りにして塩を少しふっておきます。

古生姜は皮をむいてすり下しておきます。卵をボールに割りほぐし、水大さじ一杯を加えてよくかきまぜて半分泡立てるようにしてまぜ、おろし生姜小さじ一杯、水五勺を加えてまぜ、さつま芋と玉葱の水気をよくふいて入れ、卵や水気が良くさつま芋になじんだら小麦粉をふるい入れて、これない様にまぜ合せ熱した油の中に、おたまじゃくしの小さいものに一杯づつすくって入箸でひろげながらかき揚にします。

酢一合の中に砂糖大さじ一杯と醤油大さじ三杯を加えて加減酢を作って頂きます。キャベツの葉はきれいに水洗いして、かたい部分を切りとり、四センチ位の長さに出来るだけ細かくきざんでつき合せ、同じ加減酢でいただきます。

どなたもこの会にはいれます。御希望の方は公民館へ御連絡下さい。

小須戸地名考 ㈡

柏大治

横川の耕地名

どの部落にも字名又は耕地名が遺っている。横川には字名として雁巻、二十刈、五十刈、丑ヶ嶋、大日、中作、高田がある。之らの地名を知ることは部落の発展、農地開拓上の進化の過程を知る上に極めて大切の問題であり横川の全貌を解明するのに等閑に附する訳にはまいるまい。まず之らの地名にメスを入れたい。

雁巻

此の地名は文禄検地帳（異議がある）に據れば、横川浜村、かんまき高三百七十七石二斗六升と記されて、古から開拓された横川にならんで部落地名を代表している地名である。文禄頃からなにがしの収穫があったとすればよほど古から開墾された処だと思われる。恐らく鳥から来た地名であろうが、私は小須戸の仲間木、ウヅコキの焼木それに雁巻の「キ」の音が同じものがあるので、なんらかの関連性があると考えたが、どうも全然関係がなさそうだ。すなおに多くの雁の棲息地帯で、その雁の大空に飛舞する状態から起った地名だとして置きたいがあの辺の地形からして河名から来る岸巻（ガンマキ）はどうだろう、なんとなくすてがたい気がする

二十刈　五十刈

之は田地の積を計算するのに付けられた即ち田刈から来た地名であろう両手の親指と人指を併せて稲束を計るのに、古来八株程度を一把としている。それを更に八つ寄せて一東としているので、二十刈と云うと此の一東を二十かる農作地である五十刈は説明するまでもあるまい。極めて狭い耕作田地ではあるが、此の当時と現在の耕地面積とを比較してどうだろう、此の辺に地名考の重要性がある。彌彦神社の夜本桜井古水鏡に據るに「明応前後は専ら稲の苅高を以て記す」とあれば「刈」は鎌倉時代から室町時代にかけて呼称されたものと推察される。従って二十刈、五十刈の起源は此の時代から開墾された地名で、県下至る処に刈田と名づける地名はあるが、横川では耕作地として初期に属するものでなかろうか。私はむしろ雁巻より開墾は早く、応永年間に越後一の宮居多神社に毎年上納米として供出していた米は二十刈、五十刈の農作地を中心にして収獲されたものと思う。

丑ヶ嶋

この地名は珍らしい地名で、県下でもあまり類がない。丑の形をした地形か嶋は海に対するものでなく、沼地の嶋と云う意味であろう。が何となく前住民族が居住した土地のような臭感がする。アイヌ語学者の説に依れば「湾の岩」をウシシュマと云うが、丑ヶ嶋は此のウシシュマの転化ではなかろうか、岩石があった処かどうか、出土される土器からアイヌ系のものらしいのがある点から附け加えて置く。

大日

古い地名である、大日如来（びるしやなぶつ）は眞言宗の本尊であり、仏教の信仰から附けられた地名と思われる。前年まで長さ百三十間、横四十三間、深さ二尺五寸の大日潟があり、現在では痕蹟はないが、平安朝頃に立派な眞言寺があった事が想像される。横川の明願寺、本住寺も前歴をたずねれば元眞言宗の寺であったようだ。大日の寺もいつの時代にか廃退したものと思われるが、新保の祠堂の大日様は此の寺の本尊かどうか不明である。いずれ之らの眞言寺は醍醐堂系統のものであろう。

中作　高田

耕作地から来た地名でたいした意味はなさそうだ。享保の頃、上田一反につき七斗、中田五斗三升、下田四斗下せ田三斗下の下田二斗八升の上中下の年貢米が定められているが——

高田は上田に属するのか中作は中田にあてはまるのか、そう云う訳でもなく、地形から来た地名としか受けとれない。

横川は総じて古くから開発されて文化の程度も高く、蒲原の沼沢地帯で、しかも信濃川筋では珍らしく古い歴史をもっている古村だが、慶長十三年長沢村から来て開墾に従事した中興名主長沢宗右エ門の功績も見逃す訳にはまいるまい。

（次回は小向村）

練士の称号受けた 吉田五段

横川浜吉田徳三郎五段は先般会津若松市に於て、剣道練士の称号を与えられた。

ミシン講習会

小須戸町連青

各家庭に最近普及され台数もグンと増加して来たが、ミシンを操作しておっても基礎的な知識が不足のため、色々と機械の故障をおこしたり、又製品の不出来等があり、団員の希望により技術者を招えて、ミシンの構造と取扱い方について去る八日公民館本館において講習会を開催した。尚映画「ミシンの話」「あなたのデザイン」の映写もあり有意義に講習会を終了した。